

IBARAKI ドリーム・パス事業

第3回プレゼンテーション大会「IBARAKI ドリーム★パス AWARD」

総合グランプリは 県立つくば工科高等学校 チーム Iris

1月30日（日）に「IBARAKI ドリーム★パス AWARD」（第3回プレゼンテーション大会）をオンラインで開催しました。

同日の午前中に16チームで予選を行い、選出された8チームで午後の決勝が行われました。いずれも熱のこもった発表が行われ、審査の結果、明確な課題意識や高校生とは思えない技術力に加え、質の高いプレゼンテーションが評価された県立つくば工科高等学校 チーム Iris（アイリス）が総合グランプリを受賞しました。

大会全体を通して審査員からは、「具体的な企画の提案、解決に向けた行動力に感銘した。」「生徒たちの課題に向き合う熱量が、画面を通して伝わり圧倒された。」など中高生たちの取組みを高く評価するコメントが数多く出されました。

コメントの中には、今後の活動への支援・協力についてのものもあり、中高生たちは、次のステップに向けて新たなスタートを切りました。ぜひ、貴紙誌面・局にて中高生たちの活動を御紹介ください。

- 開催日時 令和4年1月30日（日） 13:30～17:30
- 会場 茨城県県南生涯学習センター ※参加生徒は各学校や自宅からオンラインで参加
- 結果

成績/副賞	企画名	学校名/氏名
総合 グランプリ (50万)	街中案内及び歩行補助を目的とした 屋外自動走行システムの開発、研究	つくば工科高等学校 3年 <small>こやま ゆうや だいの</small> 小山 雄矢、 <small>ともや たなか なつき</small> 臺野 智也、田中 夏稀
	受賞者のコメント：実践活動を通して、技術や情報も大事だが、人のつながりが大事なのだと実感した。 今回の賞は、一生の宝にしたい。	
金賞 (30万)	HOKOTA STYLE ～空き家×小倉百人一首かるた～	鉾田第一高等学校 1年 <small>いとおか ゆうすけ いたかず にいな</small> 飯岡 裕介、糸数 新夏、 <small>すがや こうしろう みやじま はる</small> 菅谷 昂士郎、宮嶋 晴
銀賞 (20万)	茨城町における里山の整備と 間伐材を活用したビジネスプランの提案	茨城東高等学校 3年 時田 恭爾、黒田 優利
	ゴミの山を宝の山に —sweet potatoes will be your knight—	勝田高等学校 2年 高嶺 藍、阿内 七海、久江 桃花
銅賞 (10万)	ニホンミツバチが住める里山を育てる ～海一発ニホンミツバチを増やそうプロジェクト～	水海道第一高等学校 3年 石川 智也、2年 大須賀 颯太、 本橋 琉夏、稲石 陽菜乃、1年 塩原 巧也
	地図のオープンデータを活用し リサイクル拠点の情報共有を行い つくば市でのゼロ・ウェイストの推進を図る	茗溪学園高等学校 2年 藤村 哲
敢闘賞 (5万)	点と点がつながく世界	水戸第三高等学校 2年 平塚 妃鞠、前川 みずき
	古文直訳システムの開発	並木中等教育学校 4年次 菅原 紡宜
審査員特別賞 (2.5万)	土壌 pH がイネの生育速度に与える影響 ～細胞分裂と細胞成長からのアプローチ～	鹿島高等学校 3年 白戸 留菜
	電気を通す布やゴムの開発	竹園高等学校 2年 竹内 勇翔、安廣 伊織、鯨井 宏一朗、森 丈耀



▲プレゼンテーションの様子



▲プレゼンテーション大会を終えて



▲総合グランプリのつくば工科高校

スライムで農業してみませんか!?

#土浦 #SDGs #レンコン

茨城県立
土浦第一高等学校附属中学校
1年 小薬 遼輔、萩谷 悠介、
高佐 聡、正岡 由布佳、前田 咲



土浦市の農業従事者を応援するために、水分補給率の高いスライムに着目し、農業用の土に改良できないか考えた。製作にあたっては、化学燃料から作られる原料を用いず、土浦市のブランドであるレンコンの端材を原料に用いることで、循環型農業を目指すとともに農業発展に貢献する。

recipe +evidence

茨城県立
太田西山高等学校
3年 飯島 美月、1年 金田 智美

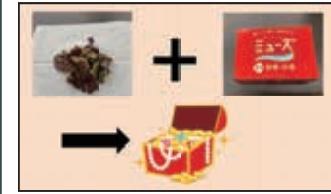


健康に対する意識の高い人を対象とした、健康ニーズを満たす食材の利用法(健康目的別時短レシピ)や、サービス利用者のレシピの利用状況に連動した食材の提供により、より健康で充実した人生を過ごす時間をサブスクリプションモデルで提供する。

ゴミの山を宝の山に

- sweet potatoes will be your knight -

茨城県立
勝田高等学校
2年 高嶺 藍、阿内 七海、久江 桃花

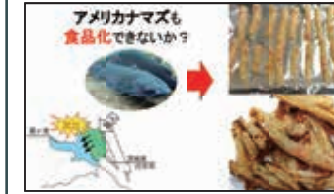


1日30t出るサツマイモの皮(ゴミ)の廃棄に悩む芋農家のために、現在コロナ禍で需要が高まっている石けんに皮を配合することで、新しい価値を見出すことを目指す。また、商品化することでひたちなか市の魅力を伝えていく。

外来魚を対象とした効果的な調理法の探索

- 外来魚からスナック菓子を作れるか -

茨城県立
鹿島高等学校
3年 浅田 祥太



外来魚の被害に遭っている漁師や、在来種を保護するために、霞ヶ浦で捕獲した外来魚でスナック菓子を製作するとともに、特産品として流通させ、茨城をアピールする。また、外来魚の個体数を減少させることで在来種が棲みやすい環境作りを目指す。

慶喜で水戸にさらなる観光資源を!

~水戸城復活を目指して~

茨城県立
水戸第一高等学校
2年 井町 遥、寺門 和奏、
中澤 美月、中澤 咲月



水戸の歴史を若い人に伝えるために、徳川慶喜と正室美智子のPR動画を作成するとともに、若者受けする名物「水戸チーズ慶喜(ケーキ)」を考案する。さらには、水戸城をプロジェクションマッピングで復活させ、観光客増加につなげる。

点と点がつなぐ世界

茨城県立
水戸第三高等学校
2年 平塚 妃鞠、前川 みずき



差別や偏見のない社会にするために、障害の有無に関わらず、あらゆる世代の人たちに楽しむことのできるボードゲーム(人生ゲーム)を制作する。

電気を通す布やゴムの開発

茨城県立
竹園高等学校
2年 竹内 勇翔、安廣 伊織、鯨井 宏一朗、
森 丈耀



金属の代替として電気伝導性を有する物質を開発するため、水を溶媒に用いてポリアニリンを合成する際、各種繊維を直接加えることで、導電性のポリアニリン・繊維複合材料の作製を目指す。

街中案内及び歩行補助を目的とした屋外自動走行システムの開発、研究

茨城県立
つくば工科高等学校
3年 小山 雄矢、臺野 智也、田中 夏稀



歩行サポートを必要とする高齢者や障害のある人などが、快適かつ安全な日常生活を送れるように、市街地を安全に自動走行するロボットを作成する。

茨城町における里山の整備と間伐材を活用したビジネスプランの提案

茨城県立
茨城東高等学校
3年 時田 恭爾、黒田 優利



茨城町の自然を保護するために、地域に広がる里山整備を実施するとともに、その際に出た「間伐材」を活用し、経済創出に取り組むことで、持続可能な循環型社会を目指す。

HOKOTA STYLE

~空き家×小倉百人一首かるた~

茨城県立
鉾田第一高等学校
1年 飯岡 裕介、糸数 新夏、
菅谷 昂士郎、宮嶋 晴



鉾田市の空き家、空き店舗を再利用し、「小倉百人一首競技かるた」で文化の香り漂うまちづくりをするために、多世代交流の場にすることや、ジュニア世代を育成するなどし、鉾田市を「かるたの聖地」にすることを目指す。

多機能型溶解炉開発

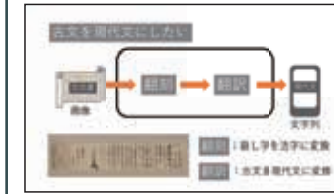
茨城県立
つくば工科高等学校
3年 白子 怜、井坂 拓巳、辻 勇太、
吉原 颯志、飯岡 好誠



防災用に使用可能な暖房や調理用ヒーターとして活用するために、ポータブルの多機能型溶解炉を開発する。さらに、金属加工等ができるようなイベントを開催し、ものづくりの楽しさを伝えていく。

古文直訳システムの開発

茨城県立
並木中等教育学校
4年次 菅原 紡宜



古文書のくずし字を画像解析し、現代語訳までの工程を一気にこなすことができるシステムを開発する。

土壌pHが植物の生育速度に与える影響

~細胞分裂と細胞成長からのアプローチ~

茨城県立
鹿島高等学校
3年 白戸 留菜



土壌pHが植物の生育に与える影響を調査し、より栄養素を効率的に摂取することができる最適なpH条件を見出すことで、農作物の生産効率を向上させ、ひいては世界中の飢餓で苦しむ人々へ食料を分配することが可能になると考え検証を目指す。

ニホンミツバチが住める里山を育てる

~海一発ニホンミツバチを増やそうプロジェクト~

茨城県立
水海道第一高等学校
3年 石川 智也、
2年 大須賀 颯太、本橋 琉夏、稲石 陽菜乃、
1年 塩原 巧也



森の生態系を維持し、野菜や果物などの農作物の安定した収穫を守るために、ニホンミツバチが訪花する頻度の高い蜜源を増やしたり、羽音解析による行動パターンの解析を行い、受粉昆虫が住める森を維持することを目指す。

さくらのおたくへ

~Hand Sign~

岩瀬 日本大学高等学校
2年 篠崎 貴広、小野 琢矢、沼田 航汰、
渡邊 翔太郎



聴覚や発話が困難な人と聴覚障害者等以外の双方の心を結ぶため、手話で伝えたい内容をAR化し、手話3Dモデルを使用することで、スムーズに会話できる環境を整えるアプリを開発する。

「地図のオープンデータを活用しリサイクル拠点の情報共有を行いつくば市でのゼロ・ウェイストの推進を図る」

茗溪学園高等学校
2年 藤村 哲



つくば市のゼロ・ウェイストを実現するため、市民それぞれの現在位置に近いリサイクル拠点の情報を共有できるウェブ地図を開発し、市民がごみ削減のための新たな生活スタイルを導入することにより、ゼロ・ウェイストに貢献することを目指す。